

ツイッター始めました

連日更新ホームページ



日本共産党

前県会議員

みわ由美

検索

2013年 10月15日 No.6

みわ 由美 笑顔通信

〒270 - 2252 松戸市千駄堀1810-2 Tel. 047-349-1544 Fax. 349-2293

松戸市議団 Tel366-7403 うつの史行・高橋たえ子・伊藤よいちろう・山口正子・高木健

ブラックな働かせ方なくしたい

10・6 「東部地域 青年のつどい」



10月6日東部スポーツセンターで開かれた「東部地域 青年のつどい」には、若者を含む約30人が参加し、アドバイザーの角谷さん・宮城さんのお話を傾けました。「これからも、こんな集いをやっていこう」という参加者の声も……。私・みわも参加しました。

角谷信一さん(千葉県立高校教師。『絶対対クする! 学生バイト術』の著者)

労働条件に関するレジュメを渡し、DVD「大人のトビラ」を映写しながら、国の定めている労働条件=時給(最低賃金)、残業時間、有給休暇、残業手当の基準など=について、クイズを出しながら、理解してもらう形で説明。これらのことを多くの青年に「知ってほしい」と話しました。

宮城みのりさん(千葉青年ユニオン委員長)

「千葉青年ユニオンは、誰でも入れる労働組合」とまず紹介。「勤務していた居酒屋の料理長が厳しい人で、仕事も厳しく、しかし月給は12万円とのことで、相談に来た彼が組合に入り、団体交渉をして有給休暇がとれるようになった」とある青年の労働の実態を報告。「ありがたいことに、若者の働き方を心配する大人も近年増えている」と話しました。

「つどい」では、私・みわは、「ブラック根絶を訴えた共産党が躍進した選挙後、若い女性が、夫の帰りが午前2時の職場を匿名で労基署に訴えたら、『改善された』と喜んでいたら、『駅で12時間働いてもタイムカードは6時間』と訴えられた」と発言。
うつの市議は、「就職活動で面接した会社から採用のときは通知するけれど、非採用のときは通知しないと報言われた若者がいる」と報告。

二人のアドバイザーのお話

かけあひる記

かけあひる記

キラキラッ! 吉良よし子参院議員と語る集い in千葉 感動!

2013/09/15

雇用のヨーコが「今日参加された方はラッキーよ。絶対、ひとりで悩まないこと。仲間はいっぱいいるからね」と誘う、「ブラック企業なくそう! 吉良よし子参院議員と語る若者のつどい」。その言葉どおりの若者の熱気ムンムンの集いでした。



ホームページ「笑顔通信」から

●裏面もどっぞ、教育関連(つくし特別支援学校)の記事が載っています●

のあと、参加者が次々と発言。参加者の若い女性が、「介護のパートをしている友達か、サービス残業を毎日30分以上やらされている」と述べ、また若い男性が「友達はアルバイト先で研修期間は給料なしとされた。これは『おかしい』と怒っていた」と述べました。
アルバイト・就職活動・職場の労働環境などの今の状況を「何とかしなければ……」という空気が会場にみまぎりました。

教室不足は依然深刻一つくし特別支援学校

田村参院議員とみわ視察



10月3日、私は、田村智子参院議員とともに松戸市や鎌ヶ谷市等の知的障害をもつ子どもたちが通う、県立一つくし特別支援学校を視察。かつて、深刻な教室不足解消のため校舎増設をとの強い要望をうけ、県議時代の私も、懸命にとりくみ、高等部棟が平成21年5月に新築されました。

増設後も、教室不足と過密の現状は深刻

昭和55年138名であつた生徒数が、校舎増設後の平成25年は283名。「つくし」の生徒数は増え続けました。新高等部棟を増設しても、過密解消していません。

第一に、教室不足の問題です。子どもたちの数からすれば、国からの認可学級は65学級（小24 中14 高27）な

のに、それに見合う普通

教室数がなないため、

65のところを、41の学習グループ（小17 中7 高校16 訪問小・高1）を編成して、41教室でやりくりしています。

図書室・会議室を普通教室に転用し、職員数が多いので、理科室や美術室を職員室に転用次々と特別教室がつぶされています。

食堂は増築され、新高等部棟建設に伴い作業室等は充実しましたが、教室不足やグラウンドや体育館の狭さなども、依然深刻です。

障害をもつ子どもたちには手厚い支援が必要なのに、障害をもつ子どもたちの学校についての施設基準を国がもっていないことをいいことに。改善が進まない弊害をこそ直視すべきでしょう。

朝の職員会議は立ったまま……夏場は37度が当たり前

第二に、教職員をめぐる問題です。毎朝の職員会議は、教職員が一堂に会する場がなく、高等部の職員室で行うため、なんと小中学部の教員は全員が立ったままとのこと。県は問題にもしていない様子。

毎朝、約10分程度とこのことです。教員が大切にされなくてどうして子どもたちが守られるでしょう。しかも、「夏場の職員室は37度が当たり前、もつと高

いかも……」とも。小さな扇風機があちこちに設置はされていますが、想像を絶する職員室でした。

千葉県教委の責任は重大です。先生方の献身的な努力で千葉の教育が支えられているものの、



子どもたちの教育条件整備とあわせこの点でも改善は急務です。

矢切に新設校が出来ても、「つくし」に新たに柏学区から編入

県の説明では、「廃止された松戸矢切高等学校の施設を利用して、平成27年4月予定で、特別支援学校を新設する」「新設校の児童生徒

数は180人規模で、通学区は松戸市のおおむね武蔵野線の西側とする」というもの。

「今の『つくし』からは、約100人が新設校に移動するが、柏市内（柏特別支援学校の国道6号線より南側を編入）から70人程度がくるので『つくし』の規模は約250人程度になる見込み。

これでは、教室不足は解消しない印象です。

柏市は松戸市と違い、いま人口増に転じている。であればなおのこ柏特別支援学校の過密解消は、県の責任で柏市内で行うべきです。編入される子どもたちや保護者の立場を考えたも、そうすべきだと私は考えます。

